



神奈川県

KANAGAWA



平成19年度犯罪のない  
安全・安心まちづくり功労者表彰  
安全・安心まちづくり奨励賞

# 活動事例集



神奈川県

# はじめに

神奈川県では、犯罪のない安全で安心な地域社会の実現に向け、「県民総ぐるみ」運動を展開し、犯罪の発生する機会を減らすための取組みのよりどころとして「神奈川県犯罪のない安全・安心まちづくり推進条例」を平成17年4月に施行しました。

県では、この条例に基づき、長年にわたり、犯罪のない安全・安心まちづくりの活動に尽力し、その功績が顕著な個人・団体への「功労者表彰」と、犯罪のない安全・安心まちづくりのモデルとなるような実践的な活動で、地域社会への貢献度が高いと認められる個人・団体への「奨励賞」の二つの制度を設けております。

平成19年度は「功労者表彰」として2人の方と3団体が、「奨励賞」として1人の方と4団体が、2月2日に横浜市内で開催された「安全・安心まちづくり県民大会」において表彰されました。

この「犯罪のない安全・安心まちづくり功労者表彰・安全・安心まちづくり奨励賞活動事例集」は、今回表彰されました方々の活動内容を取りまとめたものです。

県民の皆さんにおかれましては、地域における「犯罪のない安全・安心まちづくり」の推進の一助として、この活動事例集を活用していただければ幸いです。

## 目 次

### 《犯罪のない安全・安心まちづくり功労者表彰》

関野 晃 氏（秦野市）	1 頁
波多 善子 氏（藤沢市）	2 頁
菅町会（川崎市多摩区）	4 頁
保土ヶ谷防犯指導員連絡会（横浜市保土ヶ谷区）	5 頁
大和地区事業場防犯連絡協議会（大和市）	7 頁

### 《犯罪のない安全・安心まちづくり奨励賞》

吉田 三代子 氏（綾瀬市）	8 頁
久里浜台自主防犯パトロール隊（横須賀市）	10 頁
長後地区防犯協会（藤沢市）	11 頁
葉山町一色第一町内会（葉山町）	13 頁
平安町セキュリティーネットワーク（横浜市鶴見区）	15 頁

（個人・団体・50音順）

# 犯罪のない安全・安心まちづくり功労者表彰

せきの のぼる  
**関野 晃 氏** (秦野防犯指導員連絡会会長ほか)

活動地域：秦野市

## 1 活動地域の特徴

私たちが活動する秦野市は、神奈川県央の西部に位置し、北方には神奈川の屋根丹沢山塊が連なり、南方には渋沢丘陵と呼ばれる台地が東西に走り、県内で唯一の典型的な盆地を形成している。

市内を流れる河川の多くは、その丹沢連峰の稜線の合間から発しており、中でも塔ノ岳から発する水無川や大山から発する金目川は、盆地に入って扇状地地帯を形成し、これが今日の市街地となっている。

扇状地の砂礫層が含む地下水は、飲料水や工業用水に利用されている。また、これらの地下水は盆地内の各所で湧き出し、これが秦野盆地湧水群として、全国名水百選にも選ばれている。

気候は比較的温暖で、丹沢の美しい緑と数多くの歴史的文化遺産を有している街である。

## 2 防犯活動を始めた経緯

私は、防犯指導員として活動をしているが、その他に保護司も兼務している。

保護司とは、犯罪や非行をした人に対して、処分を受けた後に、早期に健全な地域社会へ復帰ができるよう適切な助言や指導を行う仕事だが、この活動は非常に大変である。

私は、保護司として社会復帰をしようとする若者たちに、親のように、また兄のように接しているが、ほとんどの者は罪を十分悔いた心根のいい者ばかりで、なんでこんな犯罪を起こしたの不思議に思う時もある。

そして、保護司として活動していく中で、被害者も加害者も不幸にする犯罪をどうにかして減らしたい。安全で平穏な市民生活の実現につ

いて協力したい。との思いから、昭和56年に、当時の秦野民間防犯指導員連絡会に防犯指導員として活動を始めたのである。その後、平成元年に秦野防犯指導員連絡会として組織変更があり、その時から役員として、また平成9年からは会長として、防犯指導や防犯活動の実施を通じて、地域住民の防犯意識の高揚を図っている。

## 3 防犯活動の内容・方法

秦野防犯指導員連絡会は、現在33名で構成されている。主な活動は、市や警察、防犯協会と協力して、青色回転灯装備車両等による防犯パトロール、各季の防犯キャンペーンや地域の防犯活動への積極的な参加と防犯指導を行っている。

特に重点を入れている活動は、月1回実施している防犯パトロールである。これは、小田急電鉄4駅周辺の区域にある家庭に、空き巣防止用チェックシートを使用して防犯診断を実施しながら、同時に防犯パトロールを行うもので、平成16年から実施している。

実施後にその家の人から防犯グッズを購入したとか、垣根を切って見やすくしたとか、様々な防犯対策を行ったという話を聞くと、また頑張ろうという気になり、嬉しくなる。

最近では、パトロール区域を駅周辺に限らず行っており、より多くの区域での活動を目指している。また、防犯診断だけではなく、各地元自治会と防犯パトロールを連携して一緒に行いながら、防犯の指導も実施し、防犯意識の向上による市民総ぐるみの継続的な防犯活動の啓発、推進に努めている。

市内で行われる行事にも積極的に参加してお

り、春の「丹沢まつり」や秋の「たばこ祭」では、指導員の手作りの防犯看板を掲げて防犯パレードをしている。



防犯パトロール中の関野氏（中央）

#### 4 防犯活動の成果

「秦野市安全・安心まちづくり防犯活動推進条例」が平成17年に施行されたことにより、市が警察と連携し、市民、事業者、防犯活動団体が協働して犯罪を防止するための活動を実施するにあたり、自治会で組織する防犯協会を中心とした地域の実情にあった効果的できめ細かい

地域防犯活動を展開することになった。

秦野防犯指導員連絡会でも、その趣旨に沿い、市や警察、防犯協会とともに各種のキャンペーンや独自の防犯活動を実施してきた。

それにより、平成18年は犯罪発生件数が1,762件と前年度に比べ28%減少し、平成14年の犯罪ピーク時に比べると5割程度に減少した。

#### 5 今後の課題、抱負

秦野市は東西に長く、特に小田急線の4駅周辺は特色が分かれており、例えば丹沢登山の窓口である渋沢駅、市の中心部である秦野駅、学生街の東海大学前駅、古くからの温泉街である鶴巻温泉駅となっている。これらの地域ごとの特徴を踏まえて、それぞれの地域に即した、より効果的な防犯活動をすることが今後の課題である。

今後も市民一人ひとりの防犯意識の高揚を喚起し、各種犯罪を未然に防止して、犯罪のない明るい社会の実現に少しでも役立ちたいと思っている。

## 犯罪のない安全・安心まちづくり功労者表彰

は た よしこ  
**波多 善子 氏** (片瀬地区防犯協会副会長ほか)

活動地域：藤沢市

#### 1 活動地域の特色

私たちの活動する藤沢市片瀬・江の島地区は、藤沢市の南端に位置し、地区の中心には境川が流れ、片瀬東浜海岸、片瀬西浜海岸、江の島といった湘南海岸として、風光明媚な観光地、海水浴場を抱えた山有り、川有り、海有りの自然豊かな地域である。一方、温暖な気候のもと、閑静な住宅地としての街並みも形成され、自然と住環境が調和した地域ということができる。

#### 2 防犯活動を始めた経緯

観光地ということで夏期においては、地区外からも多くの海水浴客が訪れるが、夜間ともなると、若者がいたるところから集まり深夜まで喧噪を引き起こすこともしばしばで、海岸での深夜の打ち上げ花火、一部の海の家深夜営業に伴う騒音、周辺道路の違法駐車などの迷惑行為がここ数年来の課題であった。こうした行為は、ここを訪れる観光客に対し不安を与えるだけでなく、地区住民の生活環境をも脅かしていた。

こうした事態は、地区内においても防犯協会、学校、PTAなどから常に問題とされていたが、平成13年7月より地区の青少年育成協力会、防犯協会が中心となり、地域の関係団体と連携する中で、子どもたちの夏休み期間中の「夏期海岸夜間パトロール」を立ちあげ、継続的に活動を行ってきた。

こうした活動が全市的な防犯課題としての意識を生み、平成18年度に設置した藤沢市の「犯罪のない安全・安心まちづくり対策会議」の夏期の主な事業である「夏期江の島周辺夜間パトロール」としても位置づけられ、地域と行政が一体となった全市的な取り組みに大きく発展し、現在に至っている。



片瀬江ノ島駅前で活動中の波多氏（左から3人目）

### 3 防犯活動の内容・方法

#### (1) 特色

この夏期海岸夜間パトロールは、地区青少年育成協力会、防犯協会が主導となり発足し、地区小中学校、地区町内会、住民、地区店舗、警察、行政等の協働のもとに実施されている。とりわけ海水浴場組合の理解、協力により、パトロールへの参加や深夜営業の自粛など地域、行政と海岸関係者が一体となったパトロールとして機能している。

#### (2) 実施時期と内容

子どもたちの夏休み期間（7月20日～8月31日）の毎週土曜日の夜間21：30～22：30（海の家営業時間の終了後）の間の計6日間、片瀬東浜海岸エリア・片瀬西浜海岸エリア、江の島島内、国道134号線沿いの4コー

スに分かれ、パトロールを実施している。花火をしている若者に注意を呼びかけたり、若者に早く帰宅するよう促したりと声掛けをしながら巡回している。

#### (3) 参加人数

一回につき70～80人(延べ約450人)

#### (4) 参加団体

江の島海水浴場協同組合、江の島海水浴場営業組合、新江ノ島水族館、藤沢土木事務所、くらし安全指導員、藤沢警察署、市観光協会、市関係課、片瀬江の島まちづくりの会、地区青少年支援フォーラム、片瀬小中学校PTA、地区青少年育成協力会、地区防犯協会、町内会、その他ボランティア、犯罪のない安全・安心まちづくり対策会議等

### 4 防犯活動の成果

夏期海岸夜間パトロールを開始して以来6年目を迎えるが、全市的な取り組みとして市の対策会議と合同でパトロールを行うようになった平成18年度には、深夜営業の海の家が半数に減少し、警察への片瀬海岸周辺の騒音苦情がなくなり、深夜の打上花火が減少するなど、取り組みの効果が大きく現れてきている。

さらに、平成19年度には、深夜営業を行う海の家が無くなるとともに営業時間も夜10時から9時へ短縮されるなどの海水浴場組合関係者の協力を得ることができ、周辺の防犯対策と生活環境の改善という点でさらに大きな効果があった。

### 5 今後の課題、抱負

地域住民が、まず自分たちで出来ることから始めた活動が、関係団体をはじめ、行政の協力により大きな成果をうむ活動になったこと、とりわけパトロールに参加して下さる方々には、夏休みの週末ということにも関わらず、大変なご尽力をいただき、また海水浴場組合関係者の方々には、週末の営業時間の短縮ということで大変な負担とご理解をいただいたことに、心より感謝している。



しかしながら、効果がでてきたからこれで大丈夫としてしまうと、また振り出しに戻ってしまう。継続こそ力なりで、皆様のご協力を得ながら今後もパトロールを継続していくとともに、地域団体、住民、地区店舗、行政との連携

を密にし、パトロールの拡充を図っていき、誰もが安心して訪れることができる片瀬・江の島、安全安心に生活できる片瀬・江の島を目指していきたいと切望している。

## 犯罪のない安全・安心まちづくり功労者表彰

### 菅町会 (昭和28年4月1日設立)

活動地域：川崎市多摩区 構成員数：42,216名

#### 1 活動地域の特徴

菅町会が活動する地域は、かつて多摩川の清流と、緑なす多摩丘陵との間に栄えた豊かな農村地帯であった。また鎌倉時代の栄華の名残である小沢城址、薬師堂など歴史遺産が残る町である。

現在は、京王線、JR南武線が乗り入れ、都市化が進み、マンションなどの建設とともに人口も急増し、世帯数が約1万8千世帯の全国最大規模の町会となっている。

#### 2 防犯活動を始めた経緯

菅町会の防犯部は、昭和30年頃に始まり、当時の主な活動は、街路灯の設置と増設だったが、戦後の経済発展のめまぐるしい中、全国各地で凶悪犯罪が発生し、町会の安全対策が問題として取り上げられ、町会の防犯意識が高まり、凶悪犯罪等町の防犯対策として街路灯の設置から防犯パトロール等が主な業務となった。

平成4年には、「我が町の生命・財産は自分達で守ろう。」を合言葉に、町会一丸となって活発に活動が始まった。

#### 3 防犯活動の内容・方法

##### (1) 犯罪の抑止

町会の青色回転灯装備車両5台により、空き巣、ひったくり等の犯罪抑止や、子ども見

守り活動として、スクールゾーンや学校付近における防犯パトロールを実施している。

##### (2) 防犯カメラの設置

子どもが被害者となる事件が連続発生したことから、町会でも空き巣、ひったくり対策等とともに「子ども見守り活動」に対する関心が高くなり、「子どもの安全を確保する」施策として、警察や学校等と協議し、スクールゾーンに防犯カメラを設置した。

##### (3) 防犯広報活動

町会広報部 (PR委員会) により、防犯、子ども見守り活動について広く広報するため、菅町会だよりを発行し、防犯意識の高揚を図っている。その他、犯罪発生時は、青色回転灯装備車両によるパトロール活動を実施するとともに、町会掲示板に独自の防犯ポスターを即掲示し、不審者情報の収集に努めている。

##### (4) 環境浄化活動

平成5年4月から町会OB15名により補導委員会を設置し、少年補導、違法看板の撤去活動を独自で実施するほか、交番との連携を密にし、情報交換や、合同パトロールを実施している。

#### 4 防犯活動の成果

青色回転灯装備車両5台による継続的なパト

ロール活動、掲示板による防犯広報等を実施したことで、年々犯罪が減少している。

パトロールを始めてからは、凶悪犯罪等の発生が無くなるとともに、空き巣やひったくり等の犯罪が減少するなど少しずつ効果が出てきている。

また、子どもの登下校時における見守り活動にあっては、年々ボランティアの数も増加し、町会の一人一人の防犯意識が高くなっている。



見守り活動中の菅町会の皆さん

## 5 今後の課題、抱負

犯罪の発生を抑止する施策として、防犯灯の増設（ライトアップ作戦）や危険箇所における防犯カメラの増設を検討しているが、設置費用やメンテナンス、維持費など資金的な問題が懸念されている。

## 6 団体のPR

菅町会では防犯だけでなく、防災にも力を入れており、所有する青色回転灯装備車両5台は、消防小型可変ポンプを搭載しており、また、菅会館にいち早くAEDを導入し、町会長をはじめとして、多数の人が市民救命士の講習を受けている。

最後に、菅町会は全国最大規模の町会と自負しており、「我が町の生命・財産は自分達で守ろう。」を合言葉に、町の防犯活動を続けて行きたい。

## 犯罪のない安全・安心まちづくり功労者表彰

### 保土ヶ谷防犯指導員連絡会（昭和58年4月1日設立）

活動地域：横浜市保土ヶ谷区 構成員数：25名

#### 1 活動地域の特徴

私たちが活動する保土ヶ谷区は、慶長6年（1601年）、東海道に宿場制度が定められた時、江戸から4番目の宿場として保土ヶ谷宿が誕生したことが始まりで、その後、昭和2年に保土ヶ谷区として誕生した。

地形は、横浜市のほぼ中心に位置しており、区内には帷子川と今井川という二つの川が流れ、その川を取り囲むように丘陵部が形成されるという起伏に富んだ場所になっている。

住宅地や商業施設が多い人口20万人を超える保土ヶ谷区だが、川島町の陣ヶ下溪谷や新桜ヶ丘を南北に通る約1キロの桜並木、更には仏向

町の日本カーリット跡地周辺など今なお、広い緑地の残る地域でもある。

#### 2 防犯活動を始めた経緯

我が団体設立の経緯としては、古くから自治会、町内会において防犯、防災等地道な自主ボランティア活動を行っていた有志数名により結成され、その後昭和58年4月に自治会等の推薦及び警察署の後押しにより、「犯罪のない明るい町づくり」を合言葉に地域住民の防犯意識高揚を目的として設立された。

私どもは設立時の意思を受け継ぎ、今でも防犯思想の普及高揚と犯罪のない安全・安心なま

ちづくりのため社会奉仕の精神で地道な活動を続けている。

### 3 防犯活動の内容・方法

私たち保土ヶ谷防犯指導員連絡会は、相互の連絡と親睦を図り、一致協力して犯罪のない明るいまちづくりの確立に寄与する防犯ボランティア団体である。

「防犯の実行部隊」としての意識づけのため、平成17年3月10日から週3回行っている青色回転灯装着防犯広報車による防犯広報は、延べ300回を超えたほか、年4回各8,000部を作成し、自治会・関係団体に配布している防犯機関誌「青パトほどがや」も区民に定着しており、「防犯」の一翼を担う我々としても喜びを感じている次第である。

むろん、この活動だけとらえても軌道にのるまでには紆余曲折があった。

我々の団体は25名だが、住まいもさまざま、仕事の有り無しなどを考えると、当初は「継続した活動は難しいのでは」との声もあったが、警察署、防犯協会の後押しもあり、班長制度を設け、毎月1回「班長会議」、更には「青パト編集会議」を行うことによりこの問題をクリアし、現在に至っている。

最近では、「下校途中の児童が手を振ってくれた」「いつもごくろうさまと言われた」などの話も聞けるようになり、続けていく防犯の大切さを噛み締めている。

その他、次のような活動を実施している。

#### 【全員で活動する行事】

- (1) 防犯指導員による防犯パトロール  
(毎月10日)
- (2) 安全・安心まちづくり旬間における街頭キャンペーン及び防犯パトロール  
(10月11日～20日)
- (3) 年末年始特別警戒中における街頭キャンペーン及び防犯パトロール  
(12月1日～1月3日)

#### 【個人で活動する行事】

- (1) 自治会、町内会ごとの防犯パトロール、

防犯座談会

- (2) 警察官、県くらし安全指導員とともに行う防犯診断、防犯教室等各種防犯活動
- (3) 小学校における子どもの見守り活動

### 4 防犯活動の成果

保土ヶ谷警察署の管内では、平成15年から自転車盗や空き巣等の身近な犯罪を減らそうとする街頭犯罪抑止総合対策を進めているが、昨年は11月末現在で、平成14年比の約マイナス35パーセントとの説明を受けている。

このことは、青パトによる広報活動の励みにもなっており、指導員会の中にも「継続は力なり」の風潮が生まれてきているところである。

また昨年は、主に私ども防犯指導員会が運転する防犯協会広報車以外にも自治会独自の青パト車両も管内を走るようになり、心強く思っている。



保土ヶ谷防犯指導員連絡会の皆さん

### 5 今後の課題、抱負

地域に「防犯」という言葉が定着した昨今、今後の課題としては、後継者の育成が挙げられる。高齢化の進んだ防犯ボランティア団体では、ともすればマンネリ化に陥り易く、真に実行力のある防犯活動も難しくなっていく。

当会にあっては、昨年、40代の若手に入ってもらったが、アイデアや行動力には目を見張るものがあり、やはり新しい風も取り入れながら、時代のニーズに合った防犯活動も必要だと実感する次第である。

最後に当保土ヶ谷防犯指導員連絡会は、今後



も地域住民一人ひとりが防犯意識を持って貰えるよう自分たちの町は自分たちでつくり育てる活動を微力ながら続けていく所存である。

## 6 団体のPR

我々保土ヶ谷防犯指導員連絡会が行っている防犯活動は、どれを取っても地道、努力、継続

の活動である。区民ひとり一人に防犯意識を持ってもらう、一緒に防犯活動に参加してもらうことを目的に活動を進めている。

我々は今後も、緑のベスト、緑の帽子に身を包み、地域のために何が出来るかを考えながら、防犯活動を積極的に行っていく所存である。

## 犯罪のない安全・安心まちづくり功労者表彰

# 大和地区事業場防犯連絡協議会 (昭和48年9月5日設立)

活動地域：大和市 構成員数：205社

### 1 活動地域の特徴

私たちが活動するエリアは、大和・綾瀬の両市で、大和市は都心から40kmの圏内の神奈川県ほぼ中央に位置し、横浜、町田、相模原、藤沢、海老名、座間等の市と接する人口約22万人の都市である。面積は27km<sup>2</sup>と小さな市だが、3つの鉄道が東西南北に走り、また道路網も国道16号線、246号線及び467号線のほか県道4線が縦横に走るなど、交通の利便性に高い都市である。

また、綾瀬市は、市内に駅は一つもなく、西に大山、丹沢山塊を望み、遠く富士山を仰ぐ相模野台地に位置しており、市内には、いくつかの中小河川が丘陵をぬうように流れ、自然豊かな、大和市とは対照的な市である。

### 2 防犯活動を始めた経緯

大和地区事業場防犯連絡協議会は、昭和48年9月5日に、事業場における防犯対策及び防犯活動の推進と勤労少年の非行防止を図ることを目的に、

- (1) 防犯対策についての調査研究と防犯活動の実施
- (2) 各事業場の従業員に対する防犯思想の普及と遵法精神の高揚方策

- (3) 勤労少年に対する余暇の善導と非行防止対策の推進

(4) 勤労功労者及び善行勤労青少年の表彰等の事業を展開してきたが、大学進学率の増加やマスメディアの発達等による情報の広域化等などから、勤労青少年という言葉自体が死語となる中、当協議会は青少年の健全育成と併せて地域で活動する企業の一員として、地域社会に貢献することを目的に活動を展開している。



大和地区事業場防犯連絡協議会の中村会長

### 3 防犯活動の内容・方法

防犯活動の内容等については年々様々だが、現在当協議会に加入する205の会社、企業、工場等が協力して次のような活動を行っている。

- (1) 両市主催の「緑化フェア」（4月29日）、  
「大和まつり」（5月14日）等での防犯  
キャンペーン、防犯パトロール、広報啓  
発物品等の配布
- (2) 安全・安心まちづくり旬間中の、防犯パ  
トロール、街頭キャンペーン
- (3) 企業に関わる犯罪の発生や情報を得た  
際、大和・綾瀬地区防犯協会連合会と協  
力して加入企業に対してファックスネッ  
トで注意喚起等の情報を提供
- (4) 1月10日の「110番の日」の取り組みとし  
て、警察等と協力して、子ども110番の家  
発見ラリーの実施

#### 4 防犯活動の成果

昭和48年に当協議会を結成して以来、その時々  
の社会情勢等に合わせた形で、警察や両市防犯  
協会などと協働した各種防犯活動を展開してき  
たが、両市内の種々の企業の防犯意識の高まり  
や、地域社会への貢献の必要性などから当協議  
会への加入企業数は順調に増加して現在205  
を数えている。

また、犯罪の発生状況は、警察の努力はもち  
ろん、自治体、各町内会・自治会、防犯ボラン  
ティア団体の方々が積極的に防犯活動に取り組  
んだことが大きく影響して、最も発生の多かつ

た平成15年の8,202件から、年々減少を続け、  
平成19年には5,108件と、マイナス3,094件（－  
38.8パーセント）となった。

#### 5 今後の課題、抱負

ここ数年の全国的な経済の冷え込み、不況等  
の影響から倒産する企業もあり、今後どのよう  
にして当協議会への参入企業を増やしていく  
か、また、企業体個々として、さらに協議会と  
してどのように地域社会に関わり、地域貢献し  
ていくことの必要性や重要性を後継者等にどの  
ように伝え、継承していくかが今後の課題だと  
考えている。

また、防犯とは直接関係ないが、大和・綾瀬  
両市内で平成19年中、労災事故が80件以上も発  
生しており、これも今後の課題と考えている。

#### 6 団体のPR

当協議会は、特にPR出来るような事柄はないが、  
今後も神奈川県が推進している「犯罪の  
ない安全で安心して暮らすことができる社会の実  
現」に向けて、警察、自治体、各町内会・自治  
会、防犯ボランティア団体等と協力・協働し  
て、積極的に防犯パトロールやキャンペーンに  
取り組み、地域社会に貢献・還元してゆきたい  
と考えている。

## 犯罪のない安全・安心まちづくり奨励賞

よしだ みよこ  
**吉田 三代子 氏**（綾瀬女性防犯会会長ほか）  
活動地域：綾瀬市

#### 1 活動地域の特色

綾瀬市は、昭和53年11月、県下では一番若い  
19番目の市として誕生し、人口約 8 万人の  
人々が暮らす都市である。西に大山、丹沢山塊  
を望み、遠く富士山を仰ぐ相模野台地に位置し

ており、市内には、いくつかの中小河川が丘陵  
をぬうように流れカワセミや鮎、ホタルなどが  
見られるなど自然に恵まれた環境にある。

## 2 防犯活動を始めた経緯

以前は、極めて治安の良かった綾瀬市も、企業進出、住宅地造成等による人口流入により、年々犯罪が増加傾向となった。

今後、安全で安心な地域社会の実現を図るためには、住民一人ひとりが、まず「自らの安全は自らが守り、自分達の街は自分達で守る。」という意識を持って活動し、社会の安全基盤の確立を図っていくことが、最も重要なことと考えたため、平成6年10月5日に綾瀬市、綾瀬市防犯協会、大和警察署の協力により、綾瀬女性防犯会が発足するに当たって、その一員に加えていただいた。

仲間や町内会自治会の皆さんと協力して、女性の特性を生かしたきめ細かい防犯活動を行っていきたいと考えた。

## 3 防犯活動の内容・方法

私が会長を務める綾瀬女性防犯会は、綾瀬市内に居住する34名の女性から成る自主防犯ボランティア団体である。

### 【活動する行事等】

- (1) 綾瀬市防犯協会、防犯指導員等と協働での防犯パトロールやキャンペーン（毎月10日）を実施。
- (2) 綾瀬防犯協会と協働で青色防犯パトロール（毎月27日）を実施。
- (3) 不定期だが、その時々の犯罪発生状況等から、メンバーでシナリオを作り、「オレオレ詐欺」、「声かけ、誘拐防止」、「悪質商法」等の寸劇を老人ホーム、老人会、児童会館等で高齢者や子ども達の前で発表して、防犯意識の高揚を図っている。
- (4) 安全・安心まちづくり旬間中の街頭キャンペーン、防犯パトロール（10月11日～20日）を実施。
- (5) 綾瀬緑化フェア（4月29日）、大和まつり（5月14日）、綾瀬いきいきまつり（8月29日）、ふれあい広場（10月15日、11月19

日）等での防犯キャンペーンの実施。

- (6) 年末年始特別警戒期間中の街頭キャンペーン、防犯パトロールの実施。
- (7) 防犯広報誌「もみじ」を年2回（4月、11月）に発行。

## 4 防犯活動の成果

防犯の日や、交番の日等に綾瀬市や警察と協力して、パトロールやキャンペーン、防犯寸劇などの活動を実施してきた結果、綾瀬市内の犯罪発生状況は、最も発生の多かった平成13年の2,137件から年々減少を続け、平成19年には1,183件と、マイナス954件（44.6パーセント）となった。

## 5 今後の課題・抱負

最近の私達の活動は、警察や綾瀬市防犯協会などと協働した各種防犯活動の他、前述のとおり、自分達でシナリオから作った独自の防犯寸劇の発表に力を入れているが、どうやってそのレパトリーを増やすか、また、会員が自治会からの推薦なので、今後の担い手や後継者をどのように育成するかが今後の課題だと思われる。

また、将来的には、防犯寸劇という活動が目新しいこともあってか、中々の評判をいただいているので、全員でもっともっと練習をして上手になりたいと思っている。



キャンペーン中の吉田氏（右側）

## 久里浜台自主防犯パトロール隊 (平成15年4月1日設立)

活動地域：横須賀市 構成員数：130名

### 1 活動地域の特徴

久里浜台自治会は、歴史ある浦賀の街の南方の丘陵地に、約32年ほど前に造成され浦賀港を見下ろす住宅地で、自治会は久里浜台1丁目、久里浜台2丁目があり、世帯数2,000を超える旧来からの住宅地である。

久里浜台住宅地西側には、浦賀の街から久里浜へ抜ける県道浦賀港・久里浜停車場線が走っており、南側は陸上自衛隊久里浜駐屯地に接し、東側は西浦賀の山林を隔てて浦賀港を臨んでいる。

久里浜台住宅地に通じる道路は、西側の県道から幅員6メートル道路の1箇所しかなく、防犯上の観点からは、大変に守りやすい地域であるといえる。

### 2 防犯活動を始めた経緯

住宅地完成と同時に自治会で、大変小規模であるが、火災予防、年末の見守り活動等を実施していたが、時期的な活動のみであった。

しかし、子どもが被害者となる事件が連続発生したり、交通網の発達とともに空き巣犯罪の発生が増加する中で、第一線を退き、高齢化が進む自治会の構成員達が、何か自分達で社会の役に立つことが出来ないか、自分達の街の安全を守れないか、子どもたちの安全を守ってやれないかと有志を募り、平成16年に自主防犯パトロール隊、同じく子ども見守り活動が組織化され、活動を開始したものである。

正義感に溢れる地域住民が立ち上がり、現在に至っている。

### 3 防犯活動の内容・方法

久里浜台自主防犯パトロール隊の構成員は、

現在160名に上り、うち子ども見守り隊50名が活動している。

活動は、防犯パトロール隊は、毎日午後4時から午後7時までのパトロールを実施し、子ども見守り活動は、土日祝日、学校休み期間中を除く毎日、通学路において見守り、交差点での誘導を実施し、交通事故防止、犯罪の抑止、子どもの安全活動をしている。

子ども達との会話や挨拶を交わすことが活動従事者の方々の楽しみになり、励みになっているものである。

#### 【研修会・講習会の実施】

より良い活動を実施するために、久里浜台自治会では、くらし安全指導員、浦賀警察署生活安全課及び交通課との連携を密にし、各種講習会や研修会を開催し、各人の防犯意識の向上研鑽に努めている。

#### 【情報の伝達】

犯罪情報の伝達は、浦賀警察署からの犯罪情報を電子メールで受信し、自治会の看板に掲示するとともに、自治会の広報誌「久里浜台ニュース」に掲載し、各戸に配布している。

### 4 防犯活動の成果

久里浜台自治会は、比較的平穏な住宅地であり犯罪発生件数は少ないが、何時何処でも犯罪が発生するおそれがある社会の中で、高齢者の方々の犯罪抑止に向ける気持ちが住民に伝わり参加者が増加している。

視覚に訴える防犯活動として、ポスターの掲示、のぼり旗の設置等を積極的に実施している。

また、活動を通じて住民間や子ども達とのコミュニケーション、挨拶や会話を通じて住民全体の連帯感が生じ、暖かい街に発展している。

## 5 今後の課題、抱負

仕事を持った若い人の参加は難しいが、高齢者の方々の意気込みに引かれ、参加者が増加している。

「やれるときにやる。」決して強制でない活動が長続きの秘訣。「子ども達の声が聞こえたらちょっと窓から顔を出して様子を見て下さい。」それが立派な子ども見守り活動なのである。

## 6 団体のPR

「住民の眼が犯罪を防ぐ」1人でも多くの眼が参加してくれることにより、より良い安全で安心な街が作られるのである。

今後も積極的に活動を実施して行き、更に住

民達の理解を得て、住民全員参加の活動を目指していきたい。



久里浜台自主防犯パトロール隊の皆さん

# 犯罪のない安全・安心まちづくり奨励賞

## 長後地区防犯協会 (昭和47年5月8日設立)

活動地域：藤沢市 構成員数：47名

### 1 活動地域の特徴

長後地区は、人口41万人を擁する湘南の地、藤沢市の最北端に位置し、東は横浜市泉区、西は綾瀬市に、北は大和市に接している。

歴史的には、大山街道の宿場町として栄えた由緒ある町であるが、隣接地域に横浜市営地下鉄および相模鉄道の乗り入れ等、開発の波に押され地元の商業活動は急激に衰退し、地区全域が徐々に住宅街へと変貌しつつある。

交通機関としては、地区の中央部を小田急江の島線が南北に走り、同線長後駅があり、同駅西口には藤沢北警察署長後駅前交番がある。

地区内の教育施設は、県立高校1校、市立中学校2校、市立小学校2校がある。

平成20年1月1日現在、13,208世帯、人口32,310人が居住している。

### 2 防犯活動を始めた経緯

昭和47年5月、長後地区内の防犯自活組織の連携と自主自衛活動の健全な発展を図るとともに地区の防犯活動を促進し、地域住民の生活平穏無事を期することを目的に設立。以来「愛のパトロール」や各種啓発活動による防犯意識の高揚に努めてきた。

しかしながら平成15年、地区の刑法犯発生(認知)件数が758件と危機的状態までに悪化した。そこで歯止め策として、当協会が主体となり、

- ・平成15年10月  
「地域安全活動協力員」制度
- ・平成16年7月  
「ちようご防犯パトロール隊」(現在145名)
- ・平成17年7月  
「安全・安心ひろめ班」(現在33班 397名)
- ・平成17年7月



「子ども安全5分間見守り運動」

・平成18年2月

「学校（子ども）安全ネットワーク」

を立ち上げ、地区の防犯力を高める攻めの諸活動を開始した。

### 3 防犯活動の内容・方法

事業計画に基づく防犯キャンペーンの他、多発事件や重要事案に対応した啓発活動、また「無理せずみんなで仲良く楽しくやろう」を合言葉に、見える・見せることを重点に次の防犯活動を実施している。

#### (1) 「地域安全活動協力員」

散歩、ウォーキング等を定期的に行っている方が、日常行動の中で認知した防犯情報を関係機関に通報や提言をして頂く活動。

#### (2) 「ちょうご防犯パトロール隊」

地区をA・B・C・Dの4地区に分け、週1回該当地区が午後7時から1時間、20名～30名が次の方法による活動を実施。

##### ① 基本パトロール活動

実施日に地区指定場所に集合、地区責任者の指示で3～4グループに分かれ、担当地区のパトロールを行う。

##### ② 合同パトロール活動

毎月27日（交番の日）を合同パトロール実施日とし、該当地区隊員は、長後駅前交番に集合、警察OB組織、駅前交番連絡協議会、警察官、市職員（青色回転灯装備車運行）、と共に駅周辺のデモンストレーションの後、それぞれの担当区域のパトロール活動に移行する。

##### ③ その他のパトロール活動

地区責任者の裁量で前記以外の活動が出来ることとし、有志グループで子どもの見守り活動を実施している地区もある。

#### (3) 安全・安心ひろめ班

単位自治会ごとに班を編成し、週1回3名以上の複数人で、昼間30分位、自治会内のパトロール、子どもの安全見守りや声かけを行っている。（夜間や複数回実施の自治会

もある）

#### (4) 子どもの安全5分間見守り活動

学童の登下校時間帯に合わせて、道路清掃や花の水やり等の際に、見守りと声かけを行う活動。

### 4 防犯活動の成果

#### (1) パトロール活動の定着

「自分たちの街は自分たちで守ろう」との呼びかけで、地域に貢献しようと自主的な参加者で構成されている。そのため個々の意識も高く、年々参加者も増加し、体制が充実強化され、地域に定着した組織となっている。

#### (2) 地区内の犯罪発生件数が半減

平成15年、地区内の犯罪発生（認知）件数が758件と最悪を記録した。これを機に、治安回復の歯止め策としての防犯パトロール活動を始めとする諸対策と、警察、行政との文字どおり三位一体の活動が功を奏し、以後、件数も減少を続けた。平成18年には犯罪発生件数が412件まで減少し、最悪時対比－45%となった。

さらに平成19年11月末現在、犯罪発生件数は328件、目標減少率－50%（379件）の達成は確実となり、地区の治安回復の一翼を担うことが出来た。



長後地区防犯協会の皆さん

### 5 今後の課題、抱負

#### (1) マンネリ化防止と組織の充実強化

活動参加者は比較的高齢者が多く、活動の

長期化に伴うマンネリ化の恐れがある。そのため、研修会や検討会等を随時開催し、意識の高揚と結束を強めるとともに、新規参加者の確保に努め、活力ある組織を持続させていきたい。

#### (2) リーダーの育成

組織に活力を与え、事業を円滑に推進し成果を挙げるための必須条件は、リーダーの資質如何にかかっているため、優れた人材の発掘と育成に努めていく。

#### (3) 藤沢市防犯情報配信システムの活用

組織構成員を始め、地域住民に対するシステム浸透の普及活動を推進し、防犯諸活動の効果的活用を目指す。

#### (4) 自治組織との連携強化

地区内各自治組織との連携を強め、犯罪を起こしにくいまちづくりに努めていく。

## 6 団体のPR

### (1) 長後地区学校安全ネットワーク

平成18年2月、文部科学省からモデル地区の指定を受けたのを機に、神奈川県、藤沢市教育委員会、地区内小中学校・PTA、当協会（パトロール組織および協力団体を含む）、行政、スクールガードリーダー等によるネットワークが構築された。そこでは地域ぐるみで子どもを守る体制が確立、その中核としての活動を行っている。

### (2) 地域組織との連携強化

犯罪抑止に関係ある違法広告物除却による環境浄化活動（NHK『難問解決！ご近所の底力』にて放映3回、殿堂入りも果たす）にも積極的に参加協力をしている。その他、自主防災会との合同夜間パトロールに参加、「戸締まり用心」等の啓発活動も行い、自治組織との良好な関係を築き、連携の輪を広げる発信源となっている。

## 犯罪のない安全・安心まちづくり奨励賞

### 葉山町一色第一町内会（昭和52年4月1日設立）

活動地域：葉山町 構成員数：750世帯

#### 1 活動地域の特徴

葉山町一色第一町内会は、葉山御用邸や一色海岸など多くの海水浴場、長者ヶ崎などの景勝地に恵まれ、長い海岸線とそれに迫る里山、美術館等、自然と文化環境の調和のとれた知名度の高い地域の中央部に位置する。

周囲には江ノ島、鎌倉、油壺、三崎、城ヶ島などの観光名所も多く、横浜横須賀道路、首都高速、第三京浜などのアクセスも便利。幾つかのトンネル道路も開通し、車や人の流通の多いところで、町外からの人的流入や通過車両などが多い地域である。

季節の特徴は、夏期の海水浴シーズン。各海

岸の人出も多く、家族連れや若者で賑わう。特に若者の夜間の活動人口も増える地域である。人家が多いわりには、海岸や山すそ等の人目の行き届かないところが多い地域でもある。

#### 2 防犯活動を始めた経緯

昭和59年度、葉山町の防犯モデル地区指定を受け、具体的活動を開始。犯罪予防を目的に、葉山警察署の支援により、「防犯モデル地区」の看板設置、パトロールカーの増発巡回、役員による自主パトロールなどを実施。

葉山町より「防犯・青少年の非行化防止活動」に対し表彰感謝状を受けたのを機会に、住

みよい・明るい・安全な町内づくりを合言葉に、防犯意識の向上と一層の防犯活動活発化を目指してきた。

20年以上前になるので明確ではないが、空き巣被害の発生、自転車窃盗と乗り捨て自転車の放置、痴漢情報、青少年の問題行動などが話題となっていて、防犯活動に対する町内会会員の積極的な理解と協力を受けられ活動を開始した。

### 3 防犯活動の内容・方法

毎週第二、第四土曜日（8月、12月は各週）午後7時より地域のパトロールを実施。警察官、くらし安全指導員、町内会役員10名程度で2コースに分け1時間位。要所に「防犯パトロール実施中」の”のぼり旗”と「防犯パトロール中」「空き巣にご用心」の看板2種を掲出。装備として、町内会名入り反射付チョッキ、拍子木、警報音付懐中電灯等でパトロール。県の青パトロールカーの防犯呼びかけ、警察官による巡回も適宜共同実施される。車両の進入、通行不能の場所も多く、徒歩パトロール隊が暗く見えにくいところをチェック。

児童見守り活動も登下校通学路に配置。手作り空き巣注意のプレート掲出。防犯灯の整備維持活動。会員へのニュース、会合時等で防犯意識向上の啓蒙活動を行っている。

### 4 防犯活動の成果

警察より犯罪発生件数の減少が認められるとの情報にやりがいを感じている。何パーセント減少という数字より、全体として犯罪が減っている傾向に、一層防犯活動に取り組む意欲が高まっている。

パトロール中、窓から子どもたちの元気な声「ありがとうございます」「元気だなー」、通行中の方々からの「ご苦労様です」「お気をつけて」などの声かけ活動も防犯活動の一体感や防犯意識の向上に意義ある成果といえる。

パトロール行動、反射名入りチョッキ、防犯腕章、防犯のぼり旗、防犯看板などの効果と防

犯活動と何気ない住民との一体感は、犯罪者の地域への侵入抑止効果、犯行の放棄効果に多くの成果が期待されることを信じて活動を推進している。



葉山町一色第一町内会の皆さん

### 5 今後の課題、抱負

地味な活動であるが息の長い継続が最も重要な防犯活動。息切れしない態勢作りの工夫が必要であろう。パトロールメンバーの増員で担当日の負担を減らし無理のない活動の維持や、余裕ができれば目立つ昼間のパトロールへの活動拡大への配慮など課題は多い。

活動役員の高齢化傾向にも配慮が必要であろう。若返りへの育成活動や一般の会員からの参加協力の呼びかけなど、活動継続への各種検討が課題の急務である。

犯罪のない安全・安心のまちづくり。これは生活の基本であり、安全安心のなかにいると、そのありがたさを意識しなくなってしまう。常に安全安心を自分たちの活動で守るという意識を啓蒙していきたい。そのような雰囲気が地域に根づくことにより犯罪抑止力の向上、防犯活動の成果の向上がより高まり実現することを願って活動したい。

### 6 団体のPR

葉山町一色第一町内会は、上記地域で約750世帯66班の会員をもって組織されている。防犯活動は前述の概要である。防災活動にも力を入れ、防災用品の整備や消火訓練、応急処置訓練、炊き出し訓練等を毎年実施して、火災予

防、地震防災に備えている。

会員間の親睦や地域の交流を目的に、盆踊りと日帰りバス旅行を実施。幸せふれあいサロン活動は、お一人暮らしの高齢の方を中心に年7回程度、手作りグッズ、体操教室、各種テーマ講演会、クリスマス会などを企画し実施。婦人

消防活動の実施等々。

28名程度の男女役員で各種活動を支え運営している。特別な活動や大きな活動こそないが、会員のため安心して明るく楽しいコミュニティ作りを目指して公平・公正をモットーに取り組んでいる。

## 犯罪のない安全・安心まちづくり奨励賞

### 平安町セキュリティーネットワーク (平成13年4月1日設立)

活動地域：横浜市鶴見区 構成員数：3,000世帯

#### 1 活動の特色

平安町は鶴見区にあり、横浜市と川崎市の市境で、大正11年に竣工し、昭和30年代に埋め戻された京浜運河沿いに位置し、昭和2年横浜市政発足時に誕生した。

昭和20年4月、太平洋戦争で街の9割を焼失し、戦後、住民の協力により区画整理が行われた。

道路は広く縦横に走り、平たんな地形は生活環境に恵まれ、住宅地として発展してきた。箱根駅伝第二中継所に隣接している（選手の誘導路支援をしている。）。

#### 2 活動を始めた経緯

犯罪の凶悪化、低年齢化等に加え、街頭犯罪が増加し、市民レベルで「防犯」に対する意識が高まり始めた平成14年に発足したボランティア団体。当時は街頭パトロールが主な活動であった。

徘徊高齢者の救助支援から緊急連絡網の体制が整った。以後児童に対する事件の頻発に対応して、平成17年より下校時のパトロール（声かけパトロール）が始まった。平成18年には青色回転灯車7台を導入しパトロールの日常化を図っている。

#### 3 活動の内容

- ・月曜日から金曜日まで下校時の「声かけパトロール」参加者12名から20名
- ・年一度の平安小学校「不審者侵入、避難訓練」に参加 三方面警備システム 30名から35名
- ・日常街頭パトロール青色回転灯車による町内巡回（週3～4回）
- ・週末、年末夜間パトロール20名から30名
- ・セキュリティー本部設置 週1+5回から6回
- ・緊急「人探し」 緊急連絡網による緊急パトロール（緊急時）



平安町セキュリティーネットワークの皆さん

---

#### 4 防犯活動の成果

犯罪の減少について、平成18年11月までの累計（窃盗犯）71件に対し、平成19年11月末日58件と、13件、2割近く減少している。半数は自転車・オートバイ盗である。

下校時の声かけパトロールに見られるように、100日以上参加者が、平成18年度6人から、平成19年度は10人と増加。また最高参加日数も168日から192日と自主的参加の高まりが現れている。

防犯灯の青色化により、一段と住民の防犯意識が高まってきた。

#### 5 今後の課題・抱負

町会と密着したボランティア団体のため、幅広い層の参加者の確保が容易であり、老人会、子ども会、PTAの参加も得られている。

経費は町会防犯部及びボランティア親団体、平安町福祉賛助会の支援を得ている。

行政からの必要グッズの支給も大変役立っている。

将来は犯罪のない町、パトロールから声かけ（挨拶）町歩き運動に移行したい。

#### 6 当協会のPR

「平安町セキュリティーネットワーク」はボランティア組織、平安町福祉賛助会の翼下一団体であり、平安町町会と連携し活動している。青色回転灯車活動のように町・地域を超えて活動することも多々あり、緊急時の小学校区・中学校区の取り組みもシミュレーションしている。参加は町会員以外の方も歓迎しています。

---





小野副知事(中央)と安全・安心まちづくり功労者表彰及び奨励賞の皆さん